

2009年8月10日

杉並区教育委員会
教育長 井出 隆安 殿

部落解放同盟東京都連合会
委員長 長谷川 三郎

教科書採択に関する申し入れ書

杉並区教育委員会では、8月12日の教科書採択の審査に当たって、自由社版「新編新しい歴史教科書」や扶桑社版「新しい歴史教科書」をその対象にするとのことですが、私たち部落解放同盟東京都連合会ではこれらの歴史教科書が採択されることに、強い懸念を持っています。

日本の歴史過程の中でつくられた部落差別は今も解決されず、東京においてもしばしば差別事件が発生し、被差別部落出身者の人権が侵害されています。最近では、数十名の部落解放同盟の同盟員などの自宅に直接、「エタ非人を撲滅する」「殺す」などとする差別脅迫の手紙を数百通送りつけ、犯人が逮捕されるという事件が起きています。インターネットの世界では、東京の被差別部落の所在地が暴かれ、差別煽動が呼びかけられています。

部落解放同盟の初代委員長の松本治一郎は「貴族あれば、賤族あり」として、天皇制の存在と部落差別の存在が密接に関連していることを、明らかにしています。

今回の「自由社版」及び「扶桑社版」の歴史教科書は、何れも過剰に天皇制を賛美し、また日本が犯した侵略戦争や植民地支配を正当化し、差別や排外主義を煽るものとなっています。

当然のことながら、日本国内の学者や研究者からも強い批判が出され、また、韓国・中国などアジア諸国をはじめ国外からも批判が表明されてきました。

私たち部落解放同盟東京都連合会では、このような立場を踏まえ、次の通り申し入れを行います。

記

- 1、自由社版「新編 新しい歴史教科書」及び、扶桑社版「新しい歴史教科書」の採択を行わないこと。
- 2、教科書の採択にあたっては、教職員及び学校の自主的判断を尊重すること。

以上